

水関連の研究をつなぐ場

新しいイノベーションを



大久保研究科長



沖教授



古米教授

東京大学大学院工学系研究科社会連携・産学協創推進室主催の「東大水フォーラム」公開シンポジウムがこのほど、同大学本郷キャンパスで開かれた。沖大幹・同大学未来ビジョンセンター教授の基調講演をはじめ、東大で水に関する研究を行っている研究者による5題の報告が行われ、会場の参加者も交え活発な意見交換が展開された。

同大学では、古くから水文学、河川工学、衛生工学など水に関する研究に取り組み、現在は24分野で研究が行われてい

る。これらの研究者同士をつなぐコミュニティとして、大学院工学系研究科が中心となって「東大水フォーラム」を立ち上げた。既存の専攻や組織を越えた活発な交流を行い、優れた研究成果の創出につなげていく。座長は片山浩之・大学院工学系研究科教授が務める。今回のシンポジウムは、同フォーラムのキックオフイベントの意味合いもある。

主催者を代表してあいさつした大久保達也・大学院工学系研究科長は「SDGsの中で水は重要なキーワード。東大に

は多くの水の研究者がいるが、分野が細分化されているため、全体像を把握しにくい。そのため、このフォーラムを立ち上げた。さまざまな取り組みができると思う。皆さんの忌憚のないご意見をいただきたい」と参加者に呼びかけた。

沖教授は基調講演の中で、SDGsは環境保全だけでなく経済発展の重要性も指摘していると説明。グローバル化した経済活動を踏まえ水問題も世界規模で考える必要を強調した。また、「最

新の智慧と情報は大学にある」と述べ、東大水フォーラムは地球をめぐる水と、水をめぐり目まぐるしく変わる世界を知ることができると、「特等席」であると、その意義を説明した。

続いて①地球温暖化と日本周辺の雨の降り方（高教縁・大気海洋研究所教授）②津波復興の現場から考えるインフラデザイン（中井祐・大学院工学系研究科教授）③南アジアの地下水とヒ素汚染問題の現状・発見から37年を経て

（坂本麻衣子・大学院新領域創成科学研究科准教授）④日本の水田灌漑のスマート化の現状と展望（飯田俊彰・大学院農学生命科学研究科准教授）

閉会あいさつでは、古米弘明・大学院工学系研究科水環境工学研究センター教授が登壇。「学内はもちろんです。国・自治体・関係団体・民間企業などとも議論を深めることで、国内外に水についての情報を発信し、新しいイノベーションを生み出す場に水フォーラムを育てていきたい」と意欲を述べた。

公開シンポジウムで片山浩之座長は「東大には、総合力がある。だからこそ東大水フォーラムでは、水に関する幅広い議論ができる。共同研究や学生と企業が気軽に話せる場の提供など、柔軟に考えていきたい。企業の方の意見・アイデアをどんどん出していた

「メリットある場」企業会員を募集中

東大水フォーラムでは、企業会員を募集している。年間3回程度の開催を予定している情報交換会の講演資料を入手できるほか、情報交換会でプレゼンテーションを行うこともできる。また、年間10万円（税別）。



片山教授